

恵庭岳

1 概況

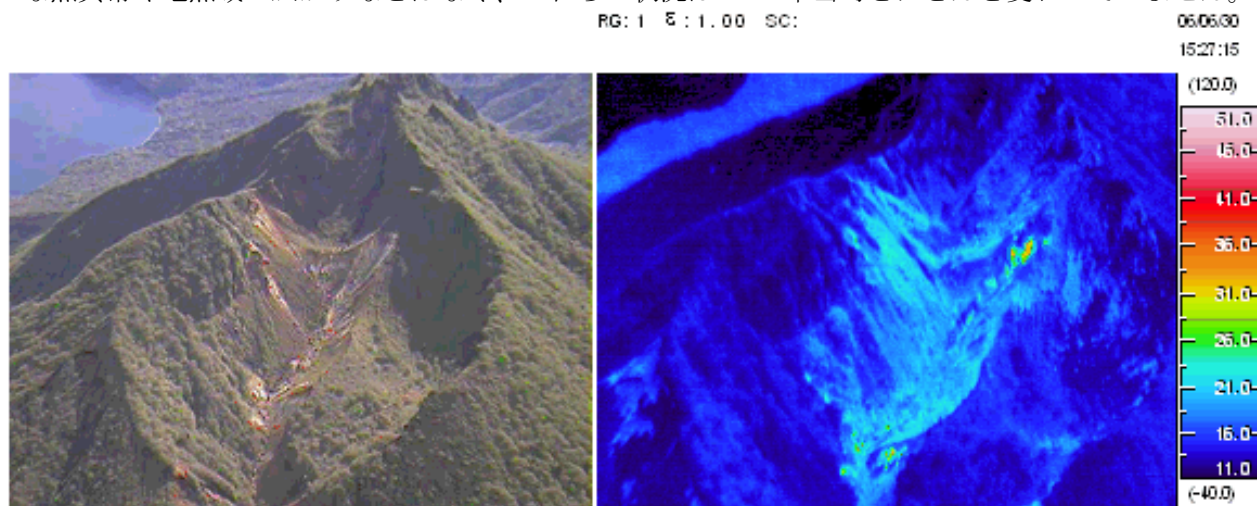
30 日に実施した上空からの観測では、噴気の状態に変化はありませんでした。
火山活動は静穏な状況です。

2 上空からの観測結果

山頂部には西に開く火口と東に開く馬蹄形の爆裂火口があります。東側の火口では現在も噴気活動を続けています。1993 年（平成 5 年）に札幌管区気象台が実施した機動観測により、東側の火口で沸点程度の地熱と弱い噴気が認められていました。

30 日に北海道開発局の協力により実施した上空からの観測では、山頂東側の爆裂火口上部から弱い白色の噴気が認められました。その状況に変化はありませんでした。

また、赤外熱映像装置による観測では地熱域に対応した数か所の高温域が認められました。顕著な熱異常や地熱域の広がりなどはなく、これらの状況は 1993 年当時とほとんど変わっていません。



赤外熱映像装置による山頂東側の表面温度分布
(6 月 30 日 15 時 27 分 北東側上空から撮影)

* 赤外放射温度計や赤外熱映像装置は、物体が放射する赤外線を感じて温度を測定する計器です。熱源から離れた場所から測定できる利点がありますが、熱源から離れるほど測定される温度は実際の温度よりも低い値になってしまいます。また、噴煙や霧で測定対象が見えにくい場合には温度測定ができないこともあります。

〈参考〉

約 15000 年前の大規模な軽石噴火以降、山頂付近や山体の東麓や西麓において、溶岩ドームの形成や溶岩の流出が続きました。恵庭火山における最後のマグマ噴火は約 2000 年前にありました。約 1700 年間の休止期の後、17 世紀初めに山頂部で水蒸気爆発が発生し、山頂東部が大規模に崩壊して火口を形成しました。崩壊物は岩屑なだれとなって山体を流下し、支笏湖に流入しました。この爆裂火口形成後、約 150 年の間に少なくとも 2 回の水蒸気爆発があり、それに伴う土石流が発生しています。